



2021（令和3）年度

熊本教区

「組重点プロジェクトリーダー研修会」

2021（令和3）年11月10日

重点プロジェクト推進室部長

岡 寄 秀 恵

# 目次

1. 御同朋の社会をめざす運動（実践運動）について・・・P3～7
2. 総合基本計画・重点プロジェクト・・・P8～11
3. 宗門重点プロジェクト実践目標の決定・・・P12～14
4. SDGs、子どもたちを取り巻く現状・・・P15～18
5. 「子どもたちの笑顔のために募金」について  
    取り組み、現況、支援先、支援現状・・・P19～31
6. 重点プロジェクト推進要綱（抜粋）・・・P32～40
7. 組、寺院・団体の実践事例・・・P41～58

# 1. 御同朋の社会をめざす運動（実践運動）について

## 『宗制』前文

「本宗門の宗祖親鸞聖人は、『顕浄土真実教行証文類』を著し、龍樹、天親、曇鸞、道綽、善導、源信、源空の七高僧の釈義を承け、『仏説無量寿経』の本義を開顕して、本願名号の真実の教えを明らかにされた。これが浄土真宗の立教開宗である。

本宗門は、その教えによって、本願名号を聞信し念仏する人々の同朋教団であり、あらゆる人々に阿弥陀如来の智慧と慈悲を伝え、もって自他共に心豊かに生きることのできる社会の実現に貢献するものである。

・・・宗門の基本理念 3

# 1. 御同朋の社会をめざす運動（実践運動）について

## 『宗法』 第2条（目的）

この宗門は、親鸞聖人を宗祖と仰ぎ、門主を中心として、宗制を遵守する個人並びに本山その他寺院及び団体を包括し、浄土真宗の教義をひろめ、法要儀式を行い、僧侶、寺族、門徒、信徒その他の者を教化育成し、自他共に心豊かに生きることのできる社会の実現に貢献することを目的とする。

# 1. 御同朋の社会をめざす運動（実践運動）について

## 「御同朋の社会をめざす運動」の実践に関する宗則 （目的）

第1条 この宗則は、宗制に掲げる基本理念を体し、あらゆる人々が自他共に心豊かに生きることのできる社会の実現に貢献する活動を、宗門全体のものとすることを理念として推進し、その成果を挙げるため、これに必要な推進体制を整備することを目的とする。

# 1. 御同朋の社会をめざす運動（実践運動）について

（「御同朋の社会をめざす運動」の推進）

第2条 前条の規定による活動を「御同朋の社会をめざす運動」（以下「実践運動」）という。

2 総局は、（略）基幹運動（門信徒会運動・同朋運動）推進の成果を踏まえ、宗務部門組織規程第2条の規定に基づき、実践運動の推進をすべての宗務の基本理念とし、その総合基本計画を策定するとともに、各宗務部門をして、これを強力に推進するものとする。

3 実践運動は、総局を中心とする中央、地方の一貫した体制のもと、宗門を構成するすべての者が参画し、かつ実践する運動として推進されなければならない。

# 1. 御同朋の社会をめざす運動（実践運動）について

「御同朋の社会をめざす運動」の実践に関する宗則  
（重点プロジェクトの策定）

**第3条 総局は、基本理念に基づく宗務の具体的な実践目標を定め、これを「重点プロジェクト」として、計画的かつ強力に推進するものとする。**

2 重点プロジェクトは、宗門内外の現状や歴史認識、人々の意識、信仰形態などの調査、分析及び議論に基づいて、総局が策定する。

3 総局は、前項の規定による重点プロジェクトの策定にあたり、各宗務部門その他関係機関に、必要な調査研究を指示するとともに、広く意見聴取を行うものとする。

## 2.総合基本計画・重点プロジェクト

専如門主は、**ご親教『念仏者の生き方』**において、「仏さまのような執われのない完全に清らかな行いはできません。しかし、それでも仏法を依りどころとして生きていくことで、私たちは他者の喜びを自らの喜びとし、他者の苦しみを自らの苦しみとするなど、少しでも仏さまのお心にかなう生き方を目指し、精一杯努力させていただけ人間になるのです」と**具体的な生き方**についてご教示くださいました。

## 2.総合基本計画・重点プロジェクト

また、『**伝灯奉告法要御満座の消息**』において、「私たち一人ひとりが真実信心をいただき、お慈悲の有り難さ尊さを人々に正しくわかりやすくお伝えすることが基本です」と**念仏者としての基本的なあり方**をお示しになり、『**念仏者の生き方**』で**ご教示**されたことが、親鸞聖人のお心にかなう歩みであると、その大切さをあらためてお諭しになっています。

## 2.総合基本計画・重点プロジェクト

さらに、『念仏者の生き方』の肝要を『私たちのちか  
い』として4カ条にまとめ、若者をはじめとしたこれまで  
仏教や浄土真宗にあまり親しみのなかった方々にも、  
さまざまな機会で唱和してほしいとお勧めくださいまし  
た。

## 2.総合基本計画・重点プロジェクト

- ・スローガン 【結ぶ絆から、広がるご縁へ】
- ・宗門重点プロジェクトの実践目標  
貧困の克服に向けて～Dāna for World Peace～  
—子どもたちを育むために—
- ・推進期間 2020(令和2)年度～  
2023(令和5)年度 4年間

※従来通り、各教区・各組において独自に定めた「実践目標」を設定し、宗門全体の実践目標と併せて取り組むことも可能

### 3. 宗門重点プロジェクト実践目標の決定

「専如門主は、『念仏者の生き方』の中で、世界規模での人類の生存に関わる困難な問題の一つとして、「経済格差」を指摘されています。世界的な経済格差は富の偏在により深刻な貧困問題を引き起こし、実に多くの人々が貧困の状況におかれ悲しみ苦しんでおり、特に弱い立場である子どもや高齢者がその影響を強く受けています。さらに、この経済格差がもたらす貧困の問題は、紛争やテロを引き起こす大きな要素ともなっており、あらゆる人々が共に心安らぐことのできる平和な世界を実現するためにも、積極的に克服すべき課題です。」

### 3.宗門重点プロジェクト実践目標の決定

「宗門では戦後70年を機縁として、3年間にわたりあらためて平和への学びを深めて、議論してきました。それをふまえ、具体的な四つの平和貢献策を提案し、公聴会等で様々な意見をいただきました。そして、その提案の一つである「**経済格差・貧困の克服へ**」は、**平和実現のため特に国内外での貧困に取り組むよう提案された**ものであり、今後注力すべき課題であると総合的に判断しました。」

### 3. 宗門重点プロジェクト実践目標の決定

さらに、国際連合でSDGs（持続可能な開発目標）が採択され、「誰一人取り残さない」の理念のもと、貧困問題に取り組んでいます。国内外の様々な組織が連携しつつ、その課題克服へ取り組む中で、宗教者に向けられた期待は高まっています。

これらの現状をふまえ、宗門では、より多くの人や寺院が参画できる取り組みとして〈貧困の克服に向けて～Dāna for World Peace～〉—子どもたちを育むために—を重点プロジェクトの実践目標として定め、世界を視野に入れ長期的展望に立ち、お釈迦さま以来、仏教が大切にしてきた「布施」の精神をもとに、できることから実践します。

# 4. SDGs (持続可能な開発目標) について



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標

<p>1 貧困をなくそう</p>	<p>2 飢餓をゼロに</p>	<p>3 すべての人に健康と福祉を</p>	<p>4 質の高い教育をみんなに</p>	<p>5 ジェンダー平等を実現しよう</p>	<p>6 安全な水とトイレを世界中に</p>
<p>7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに</p>	<p>8 働きがいも経済成長も</p>	<p>9 産業と技術革新の基盤をつくろう</p>	<p>10 人や国の不平等をなくそう</p>	<p>11 住み続けられるまちづくりを</p>	<p>12 つくる責任 つかう責任</p>
<p>13 気候変動に具体的な対策を</p>	<p>14 海の豊かさを守ろう</p>	<p>15 陸の豊かさも守ろう</p>	<p>16 平和と公正をすべての人に</p>	<p>17 パートナーシップで目標を達成しよう</p>	

# 目標1：貧困をなくす

全世界のあらゆる形の貧困を終わらせる

全世界で7億8300万人、10人に1人が  
1日1.9ドル(約200円)未満で生活

1 貧困を  
なくそう



絶対的  
貧困

国際連合広報局

Copyright 浄土真宗本願寺派 All Rights Reserved.

# 目標2：飢餓（きが）をゼロにする

すべての人が栄養のある十分な食事と安定した農業を

栄養不良で命を落とす5歳未満の子どもが、年間310万人もいる



絶対的  
貧困

## 4.子どもたちを取り巻く現状

◇日本の子どもの貧困率 ※18才以下

2019年:13.5% (2015年:13.9%)

「当たり前」に出来ていることを、貧困のために出来ない子ども 「7人に1人」

○相対的貧困

(十分な食事が得られない、医療を受けられない、学習、進学のお機会を失うなど)

# 5. 「子どもたちの笑顔のために募金」について

宗門重点プロジェクト実践目標のもと、社会の中で弱い立場にある子どもたちを支援し、その笑顔が広がるために、「子どもたちの笑顔のために募金」活動に取り組む。



# 募金集計

**合計 43,154,913円**

第1回集計分 ¥21,108,941.-  
(2018年8月～2020年1月末)

第2回集計分 ¥22,045,972.-  
(2020年2月～2021年1月末)

# 募金の支援先と配分

【「子どもたちの笑顔のために募金」管理委員会にて決定】

(1) Dāna for World Peace! – 世界の子どもたちの笑顔を  
応援します

① 浄土真宗の有志で国際的に活動する団体からの申請に  
基づく支援

支援状況：130万円（13団体）

② カトマンズ本願寺と連携したネパールの子どもへの支援

第1次支援状況：550万円

（ネパール・セティテレビ中学校の食堂建設等） 21

# 海外支援（国際的活動団体）

本願寺新報 7月20日号

【メラウーキャンプ】

教育支援の会

「母国に帰れる日まで」

ミャンマー難民キャンプに教育支援

「子どもたちの笑顔のために募金」は、海外の子どもたちの支援活動にも活用されている。広島県三次市・西善寺の小武正教住職(83)が代表を務める「メラウーキャンプ教育支援の会」もその一つ。ミャンマーから追われた人々が暮らす難民キャンプの学校運営を支援している。

ミャンマー国境沿いのタイ山岳地帯には、ミャンマーの軍事政権から追われ、一時避難を余儀なくされる15万人超が暮らす難民キャンプが点在する。キャンプには、学校も作られ、小学生から高校生までの子どもたちが教育を受けている。

「メラウーキャンプ教育支援の会」は、その一つであるヤウンニーウー学校(タイ・メラウーキャンプ)への教育支援に取り組む。

「子どもたちの笑顔のために募金」支援先を訪ねる ③海外支援

きっかけは、2007年9月に起きたミャンマーでの民主化運動。国民が平和に暮らせるためにと運動の先頭に立つミャンマーの僧侶から助けを求めるメールを受け取った小武住職。「同じ仏教徒として、何かせすにはいられなかった。多くの人を助けられていることを知り、自分のできることを」と、10月に広島市で学習会を開いた。そこには、ミャンマー難民の「コロラット」さんが参加しており、住む所を奪われた多くの難民の窮状を訴えた。そして、「難民キャンプの学校運営には年間300万円がかかる。キリスト教徒が多いキャンプには海外からの援助はあるが、仏教徒が多いキャンプには支援が届かない。

メラウーキャンプ教育支援の会 (広島)



教育支援を行う難民キャンプの中に設けられたヤウンニーウー学校の子もたち

い。現地を訪問し、現状を見てほしい」という声を聞き、その場で賛同した僧侶や門信徒、市民で会を立ち上げた。子どもへの支援を行うことを決め、支援先はコロラットさんが知るメラウーキャンプとなった。

翌年2月には、集めた支援金を携え、初めて現地を訪問。発電機、パソコンなども届けた。ヤウンニーウー学校には、小学生から高校生までの600人が学ん

でいた。以来、毎年2月にスタディーツアーを続け、寄せられた支援金を現地に届け、子どもたちとの交流を行ってきた。

しかし今年、コロナ禍で現地訪問を初めて中止、支援金は送金した。さらに2月1日には軍事クーデターが起きた。小武住職は「子どもたちの笑顔が、不安や恐怖で消えていらないだろうかと心配でたまらない。仏教徒として武器を持ちたくない」と心の内を語って

を写した写真パネル展も行っている。会員の高橋了融さん(75、岡山県笠岡市・地福寺住職)は「本山の子どもたちの笑顔のために募金」からの支援金も大変ありがたい。クーデターで難民は増えていると聞く。さらなる支援の輪を広げたい」と意気込む。

小武住職は「人間同士の対立は、『共に生きる』とは何かと私自身に問われていくように思う。ヤウンニーウー学校にはさまざまな民族の子どもたちが一緒に学んでいる。お互いを認め合い、受け入れる社会あり方をこの学校から学んだ。みんなが仲良く暮らせる世の中になることを願う、子どもたちの教育に期待を寄せている。ミャンマーの人々が帰国できるまで、支援を続けていきたい」と語る。問い合わせは小武住職(08824(63)(8042、odake@orange.or.jp)

子どもたちの笑顔のために募金 貧困の克服に向け、社会の中で特に弱い立場にある子どもたちを支援し、その笑顔が広がるようにと2018年8月に宗派が開設した。国内の子ども食堂や学習支援、児童養護施設、海外の子どもたちへの支援活動を行う団体で活用されている。

# 海外支援（カトマンズ本願寺と連携）

## セティデビ中学校支援



食堂建設



資材（レンガ）運搬

# 海外支援（カトマンズ本願寺と連携）

## セティデビ中学校支援



食堂外観



食堂内部

# 本願寺新報5月10号

## 『ネパール』

### セティデビ中学校食堂建設

#### カトマンズ本願寺と連携 食堂や壁を建築

#### ネパールセティデビ中学校支援

#### 支援金 第1次の半分300万円を現地に送金

#### 子どもたちの笑顔のために募金

貧困の克服に向け、セティデビ中学校の支援の中で特に弱い立場に充てる。同中学校場にある子どもたちを支援し、その笑顔が広がるようにと2018年に開設された「子どもの笑顔のために」募金。3月30日には、コロナ禍で用けられていなかったネパールへの第1次支援600万円のうち300万円を同開教事務所へ送金。残り300万円も6月中に送金する予定。

カトマンズ本願寺は、その後も複数の支援団体のサポートを受け、4年かけてコンクリート製の2階建て校舎を建設した。カトマンズ本願寺は、現在、衛生的な環境で食事ができる食堂を、野生動物から子どもたちを守るための校門と壁の建設を計画しており、今回の支援金はこれらの建設に充てられる。ネパール開教事務所のソナム・ワンディ、お心を身近に感

「子どもたちの笑顔のために募金」は、昨年2月から今年1月末までに寄せられた募金のうち、第2次支援として1900万円の分配を決定（3月10日号既報）。そのうち500万円はネパール開教地の子どもたちの教育支援に充てられる。

「子どもたちの笑顔のために募金」は、昨年2月から今年1月末までに寄せられた募金のうち、第2次支援として1900万円の分配を決定（3月10日号既報）。そのうち500万円はネパール開教地の子どもたちの教育支援に充てられる。

「子どもたちの笑顔のために募金」は、昨年2月から今年1月末までに寄せられた募金のうち、第2次支援として1900万円の分配を決定（3月10日号既報）。そのうち500万円はネパール開教地の子どもたちの教育支援に充てられる。



食堂建設の様子。奥の建物はカトマンズ本願寺が複数の支援団体などと連携して建てた校舎



海外の貧困に苦しむ子どもたち  
国内の子ども食堂、学習支援、児童養護施設  
を支援

**子どもたちの笑顔のために募金**

【郵便振替】 00940-8-282766  
(加入者名)子どもたちの笑顔のために募金  
※通信欄に寄付者の本願寺新報掲載の可否を明記  
【銀行振込】 ゆうちょ銀行 099店 当座  
0282766  
偶数月発行の「宗報」に振込用紙を綴じ込んでいます。

笑顔募金についての問い合わせは本山・重点プロジェクト推進室 ☎075(371)5181。



募金箱、冊子の活用を  
本山・重点プロジェクト推進室は「子どもたちの笑顔のために募金」の募金箱、啓発リーフレット（A4三つ折）を制作し、広くたい。コロナ禍でみんな

# 募金の支援先と配分

## (2)子どもたちの居場所づくりを応援します

○寺院で子ども食堂などの活動を行っている主催者への支援

支援状況：533万円（78団体）

※子ども食堂：57団体、学習支援：21団体

## (3)施設で暮らす子どもの笑顔を応援します

○本派全国児童養護施設連絡協議会の加盟13施設への支援

支援状況：1,367万円（1,159名）

※卒園生：3万円、在園生：1万円

# 国内支援（子ども食堂）

本願寺新報7月1日号

【てらこやあんのん】

だれでも食堂【】

「子どもたちの笑顔のために募金」 支援先を訪ねる ②子ども食堂

「子どもたちの笑顔のために募金」は、寺院などで開かれる子ども食堂にも活用されている。その一つ、佐賀市川副町の妙恩寺で行われている「てらこやあんのん」だれでも食堂を訪ねた。

「てらこやあんのん」だれでも食堂（代表＝今川房子・妙恩寺坊主）は、本堂を会場に2018年6月からスタート。毎月第4土曜（12月は第3土曜）に開いている。午後4時に始まり、多い日には20人近くの子どもが集まり、食事をして、7時過ぎまで過ごす。しかし、コロナ禍の影響で、昨年12月からは活動を縮小。持ち帰りの弁当を渡すだけとなったが、「子どもたちのために」の思いで活動を継続している。

## てらこやあんのんだれでも食堂（佐賀市）

する伊東恵子さん(83)から「ほんの一部だが、食事が『キューリー本』と話した子どももいる」と聞いたこと。川副町は田畑が広がり、有明海と筑後川の恵みを受けたのり養殖が盛んな地域。今川さんは「のどかな町に貧困をはじめ、家族の問題は見えていなかった。見えないから放っておくのではなく、活動を始めれば、行ってみようかな」と、そうした子どもたちとつながることができると「行動が先」と、食堂の発足を思い立った。

コロナ禍の影響を受け、昨年12月からは弁当だけとなったが、手渡すわずかな時間でも子どもたちとの交流は欠かさない。左が今川房子坊主＝2月27日



## 子どもとつながるためには「行動が先」

理を弁当にして手渡すだけとなったが、それでも毎回、40人分ほどを準備する。1時半過ぎからスタッフが集まり始める。北村さんが「料理が好きたから、協力できるのがうれしい」と話すと、徳永さんは「料理は嫌い（笑）。でも、ここでの会話が楽しい。楽しくないと続かない」と答えた。

取材日（2月27日）の献立は、肉巻き揚げ物、ポテトサラダ、ほうれん草のごま和え、油揚げ豆腐、特製の野菜煮込みなど。子どもたちの健康を気遣う今川さんのこだわりは、野菜の煮物をベースにし、全体的に薄味にすること。

昨年11月、「子どもたちの笑顔のために募金」から助成金を受けた。今川さんは「本当にうれしかった。領収書に大変助かります。ありがとうございます」と話した。

最初は、母子の参加が自立したが、「家族一緒にどうぞ」と声かけを続け、祖父母を含めた、家族ぐるみでの参加も増え、子育てに悩む親同士の交流の場にもなってきた。

地域の現状も見えてきた。漁業や農業を生業とする家が多いが、近年は核家族化が進み、子どもが孤立していることがわかった。

父親が夫家（農業・漁業）に無い、母親はパート務めなどで留守をする。特に農繁期やのり養殖の繁忙期は、子どもたちの食事の準備も難しいほどという。

参加費は高校生まで無料、大人は200円。

子どもたちの笑顔のために募金 貧困の克服に向け、社会の中で特に弱い立場にある子どもたちを支援し、その笑顔が広がるようにと2018年8月に宗派が開設した。国内の子ども食堂や学習支援、児童養護施設、海外の子どもたちへの支援活動を行う団体で活用されている。

# 国内支援（学習支援）

本願寺新報 6月20日号

【寺子屋みらい in 善宗寺】

in 善宗寺

「子どもたちの笑顔のために募金」 支援先を訪ねる ①学習支援活動

## 寺子屋みらい in 善宗寺 (東京都世田谷区)

貧困の克服に向け、社会の中で特に弱い立場にある子どもたちを支援し、その笑顔が広がるようにと2018年8月に宗家が開設した「子どもたちの笑顔のために募金」は、国内の子ども食堂や学習支援、児童養護施設、海外の子どもたちへの支援活動を行う団体で活用されている。その一つ、東京都世田谷区の善宗寺（西垣義孝住職）で行われている学習支援活動「寺子屋みらい in 善宗寺」を訪ねた。



「寺子屋みらい in 善宗寺」は、宗家を「教室」として、不登校や経済的理由など、生活環境や学習環境に課題のある小・中・高校生を5年前から受け入れている（写真）。学習面では高校卒業を目指し、お寺の活動の手伝いなどを通じた新たな学びや経験、出会いから、子どもたちが自己肯定感を高められるように、というのがねらいだ。

経済的理由だけでなく、何となく子どもたちのためにと学習支援活動を模索する中で、「一般社団法人子ども・若者応援団」の行う2つの学習支援「寺子屋」TERAKOYA が、会場を借りて開催していることを知った。その代表、ソーシャルワーカーの竹村睦子さん（64）と会った西垣坊守は「寺子屋」という名前なら、ぜひお寺で」と迎え入れた。名称は「寺子屋みらい in 善宗寺」となり、2016年4月から活動が始まった。

塾長は、公立小学校で校長経験のある古澤昇さん（71）。地域の元教員6人が講師を務める。開催は週1回。現在は12人の子どもが登録する。コロナ禍以前は毎週金曜日の午前10時から午後8時半までだったが、午後7時から6時に短縮している。

竹村さんが提唱するのは、子どもに合わせる「子どもの支援体制」。指導方針は子どもと一緒に作る。その日に時間割を決め、英語や国語、数学などを個別に指導していく。中学で国語教師をしていた講師の松林園子さん（64）は「どうする？ やる？。みたいな感じで学習が始まる。そのゆるやかな子どもたちにとって、私たち大人にとってもほっとするところ」とほほえむ。大学生ボランティアも、子どもと本当の友だちのように結びつき、生活面は竹村さんがケアをして、子どもの心の依りどころとなっている。現役の教師が見学に来るケースも増えているという。

通制制の高校に在籍する

## 子どものお寺を「教室」として開放

「寺子屋みらい in 善宗寺」は地域の人たちで運営されている。（左側から）主宰者のソーシャルワーカー・竹村睦子さんと古澤昇塾長。右は西垣義孝住職とけい子坊守



男子生徒（18）は「ここ以外持ちの開放と場所の開放、の塾は知らないが、広いので勉強するのに集中しやすい。先生この勉強以外にも、友達や大学生とカードゲームをしたり、境内で遊ぶこともできる。2階の静かなところで自習することもできるし、いろんな人が面白いと思う」と説明してくれた。

新型コロナウイルス拡大による緊急事態宣言を受けて、昨年4月からの半年間は断続的に休止した期間が多かった。ここでしびれを切らしたのが子どもたち。古澤塾長は「LINEで友達と繋がってはいないが、直接会わないと落ち着かないと、急ぎ9月の途中から時間短縮で再開した」と語る。

善宗寺から善宗寺に会場を移したことで、子どもたちの雰囲気が一変したという。竹村さんは「善宗寺は、その時間以外は全然関係のない場所になってしまいが、お寺はずっとそのままあり続ける。来られなくてもあり続けることに感謝、感謝することの心の安定感、寺院が力寺でも増えている」と語った。

西垣坊守は「お寺ですべてをやるのではなく、みんなが協力し合うことが大切。子どもの心は面はソーシャルワーカーにお任せし、教師は問使や地域のつながりで定年退職された方に声をかけることもできる。子どもたちがここで学んだことで、この場所にお寺があり、いつでも来たいんだと感じてくれればと思う。地域の状況で取り組みも変わってくるが、子どもたちのために活動する寺院が力寺でも増えてくれれば」と願った。

# 国内支援（浄土真宗本願寺派全国児童養護施設）

「子どもたちの笑顔のために募金」支援先を訪ねる ④児童養護施設

大阪西本願寺常照園

大阪西本願寺常照園の小川健二郎園長と卒園生の喜久川真句さん



常照園には現在、2歳から18歳までの約60人が暮らしている。3階建ての大規模園舎には3〜4人用の男女別の居室があり、食事や浴室、トイレは共同となっている。園の1日は、各自で起床し、食堂で順次朝食を取り、幼稚園、小・中・高校へそれぞれ登園、登校。帰宅後は園庭で遊んだりして過ごし、夕食はそろって食べる。その後、学習や入浴を済ませて就寝。

## 卒園生に聞く「園の存在」

「子どもたちの笑顔のために募金」は、浄土真宗本願寺派全国児童養護施設連絡協議会（堀浄信会長）の加盟園の子どもたちにも支援金を届けている。児童養護施設は、さまざまな事情により、家庭で生活することができない2歳からおおむね18歳の子どもの家庭にかわる生活の場。社会の一員として自立できるように、子どもたちの成長を支援している。大阪府吹田市・大阪西本願寺常照園（小川健二郎園長）を訪ね、卒園生に「振り返って思う園の存在」について聞いた。

常照園には現在、2歳から18歳までの約60人が暮らして就寝まで生活リズムをつかんで過ごせるように親のようにつけてサポートする。そして、それぞれの子どもが抱える状況を把握しながら、時には相談相手となり、その成長を支える。

職員は、保育士や児童指導員、管理栄養士、看護師、調理師、臨床心理士など45名が在籍している。

昨年3月に卒園した喜久川真句さん（19）は、小学5年から高校3年までの8年間を同園で過ごした。

家庭の事情で入所した当時のことを思い出し、「入ってから5年ほどは、部屋にも学校にもどこにも居

## 「私にとって もう一つの帰る場所」

場所がなかった。園の子どもみんなそうだったように思う。さまざまな事情を抱え、思春期の不安定もあり、ささいなことでのトラブルに巻き込まれ、陰湿ないじめにあった。周りに人はいっばいいても、私一人取り残されたような感じだった。漠然と『死にたい』と思ったこともあった。仮病を使って学校を休み、だれもいない部屋で一人過ごすこともあった」と語った。

そうした喜久川さんを温かく見守ってきた児童指導員は「いつも周りに気を遣う子で、気を遣いすぎて、自分の思いを抑え込み、つらいこともたくさんあったと思う。心を許せるような関係の人が必要だと思い、親とは違う、友達のような距離感で話し相手になっていった。自分で考え、行動できるように育ててほしいという思いだった」と話す。

喜久川さんは「卒園して、気付かされることばかり。園ではいつも私のことを気にかけてくれていた先生たちに囲まれ、守られていた。それが当たり前と思っていたが、社会に出て、当たり前ではないということがわかった。いいときも、つらいときも、いつも寄り添ってくれた大人がいてくれたことに感謝している。この園は実家以外に、私のもう一つの帰る場所」とほほ笑む。強い信頼関係に結ばれたその指導員とは、今も連絡を取り合う間柄だ。

喜久川さんは卒園後、親元へは戻らず、大阪市内のグループホームで暮らす。アミューズメントパークで働き1年以上が過ぎた。「一人で暮らし、働くということがどんなに大変かが身にしみた。園では、お小遣いをもらい好きなように使っていたが、今はお金の大切

子どもたちの笑顔のために募金 貧困の克服に向け、社会の中で特に弱い立場にある子どもたちを支援し、その笑顔が広がるようにと2018年8月に宗派が開設した。国内の子ども食堂や学習支援、児童養護施設、海外の子どもたちへの支援活動を行う団体で活用されている。

常照園は昭和6年、第23代勝如上人の伝灯奉告記念事業として大阪教区が要保護少年の収容施設「少年保護団体本願寺常照園」として設置されたのが始まり。同園の支援に関する問い合わせは☎06（63384）0867。

本願寺新報 8月10日号  
大阪西本願寺常照園

『児童養護施設の子どもから

御礼・感謝の手紙』

宗派が重点プロジェクトの実践目標として掲げる「(貧困の克服に向けて～Dāna for World Peace～) 子どもたちを育むために」の一環として取り組む「子どもたちの笑顔のために募金」に、昨年2月からの1年間で、2204万5972円が寄せられた。3月にはその一部を、昨年に続いて浄土真宗本願寺派全国児童養護施設連絡協議会(=全養本派クラブ、堀浄信会長)加盟団に届けた(在園生510人に各1万円、就職や進学で施設を卒業した53人に各3万円の計669万円)。

- 3月に募金を届けた全養本派クラブ加盟団
●栃木県真岡市・あかつき寮 ●福岡県大任町・誠心学園
●埼玉県大野市・生慈児童院 ●佐賀県基山町・洗心寮
●名古屋市守山区・金城六華園 ●熊本県水原市・光明堂園
●大阪府東大阪市・生駒学園 ●向・満出光明堂園
●向吹田市・大阪西本願寺常照園 ●熊本市北区・龍山学院
●山口県防府市・防府海北園 ●大分県玖珠町・誠心学園
●高知市・南海少年寮

子どもたちの笑顔のために募金
児童養護施設の卒園生、在園生563人に669万円贈る



本山に感謝の手紙

卒園生
これまで約7年間、養護施設で暮らしてきました。たくさんの方のサポートのおかげで、高校まで学ぶことができました。このように経験も、生駒学園という施設がなかったらできなかったこととです。これからの私の生活の糧になると思います。卒業しましたが、このご恩を忘れることなく、いただいた支援金も本願寺に活用したいと思っています。(生駒学園)

在園生
今回も私たちのためにありがとうございました。私は将来、人と接したり人の手伝いをする人になりたいと思っています。今は家の事情で施設にいるけど、私は逆によかったと思っています。たくさんの方に支えられて、今の自分があり、施設にいたからこそ、今の自分の将来の夢があると思っています。私は、施設長の先生方に優しく、温かさを感じました。なので、私もそういう大人になり、子どもを笑顔にできるような優しい大人になりたいと思っています。

「このご恩を忘れることなく」
このたびは、卒業祝いをしていただき、ありがとうございます。4月から山口大学への進学が決まっています。ご寄付いただいたお金の一部を、入学費用に使わせていただきます。いつも応援してくださる方々のおかげで、安心して勉強しています。この勉強のために有効に活用していきたいと思っています。そして、自分の夢を叶え、社会に貢献していきたいです。(龍山学院)

将来は自分も寄付できる人に
このたびは、ご寄付いただきありがとうございます。誠に学園/中2
心温まるご寄付をありがとうございます。集まるほど多くの力になると今目覚ましく感じています。このような活動をしてくださっている皆さま、すごくて心もった方々なんだと感じています。自分もこのようにできる日が来ると信じています。勉学に励みます。(防府海北園/高1)



児童養護施設...児童福祉法に定められた児童福祉施設の一つ。さまざまな事情により、家庭で生活することができない2歳からおおむね18歳の子どものための、家庭にかかわる生活の場。社会の一員として自立できるように、子どもたちを援助育成している。
(金城六華園/中3)

全養本派クラブ・堀浄信会長「お礼の言葉」

このたびは、浄土真宗本願寺派全国児童養護施設連絡協議会加盟施設で暮らす子どもたちへ、ご寄付をたまわり、誠に有り難うございました。510人の子どもたち全員に1万円ずつ、また、3月に就職や進学で卒業していった子どもたち53人へ3万円ずつ配分いただき、合計669万円の子どもたちへ、総額669万円をたまわりました。昨年に引き続き、みなさまからのあたたかいご支援、子どもたちは笑顔いっぱいとても喜んでいてます。昨年度は、コロナ禍の中、世界の全ての人たちが窮乏な生活を強いられました。施設で暮らす子どもたちは、少なくとも6人以上の、一定以上の集団による生活です。クラスター(集団感染)を防ぐため、お互い感染しない、感染させないように、より多くの制約を強いられました。中には、数カ月間、保護者との面会ができなかった子どもさんいらっしゃいました。ただでさえ、家族と生活ができないう状況の中で、悲しみやつらさが多かった毎日だっただろうと想像するところです。しかし、それぞれが本当に辛く生活をし、力強く成長してくれたように思います。このたびのみなさまからのあたたかなご支援は、そんな子どもたちへのご褒美かと思えます。子どもたち一人一人へ、「頑張ってくれてありがとう! いつも本当によく頑張っているあなたのことを、たくさんの人たちが見守り、たくさんの人たちが支えてくださっているんだよ」と伝えていきたいと思っています。「誰かを想うことは、他の誰かが、また誰かから想われることにつながる」きっと、想いは、笑顔は、つながります。

想いは、笑顔は、つながります

## 5. 「子どもたちの笑顔のために募金」について

第3回目集計分現況（11月1日現在）

13,673,846円

(585件)

[2021(令和3)年2月～ 2022(令和4)年1月末集計]

## 6.重点プロジェクト 推進要綱【教区リーダー】

### (目的)

宗門重点プロジェクトの実践目標を計画的かつ強かに推進するため、教区に重点プロジェクトリーダー及び重点プロジェクトサブリーダーを置き、中央宗務機関・教区・組を通じた一体的な運動とするもの。

## 6.重点プロジェクト 推進要綱【教区リーダー】

---

### (推進体制)

教区の重点プロジェクトリーダー及び重点プロジェクトサブリーダーは、中央宗務機関及び組と連携し、重点プロジェクトの推進にあたる。

## 6.重点プロジェクト 推進要綱【教区リーダー】

教区重点プロジェクトリーダーは、  
教区の実践運動委員会で協議された推進計画  
に基づき、教区における重点プロジェクトの促進  
を図る。

※サブリーダーは所属する教区の重点プロジェ  
クトリーダーを補佐

## 6.重点プロジェクト推進要綱【教区リーダー】

### (所掌事項)

- ①教区における重点プロジェクト推進の実務担当従事
- ②教区における重点プロジェクト推進計画の立案・整理
- ③教区内における重点プロジェクトの活動実態等の調査、  
収集整理及び現状把握
- ④教区重点プロジェクトの現状を教区委員会に報告
- ⑤教区内の組、寺院又は教化団体の研修会等への出講
- ⑥組の重点プロジェクト推進に助言

## 6.重点プロジェクト 推進要綱【組リーダー】

### (目的)

宗門重点プロジェクトの実践目標を計画的かつ強かに推進するため、組重点プロジェクトリーダー及び重点プロジェクトサブリーダーを置き、中央宗務機関・教区・組を通じた一体的な運動とするもの。

## 6.重点プロジェクト 推進要綱【組リーダー】

---

### (推進体制)

組の重点プロジェクトリーダー及び重点プロジェクトサブリーダーは、教区と連携し、重点プロジェクトの推進にあたる。

## 6.重点プロジェクト 推進要綱【組リーダー】

---

組重点プロジェクトリーダーは、  
組の実践運動委員会で協議された推進計画に  
基づき、組における重点プロジェクトの促進を図  
る。

※サブリーダーは所属する組の重点プロジェクト  
リーダーを補佐

## 6.重点プロジェクト 推進要綱【組リーダー】

### (所掌事項)

- ①組の重点プロジェクト推進の実務担当従事
- ②組の重点プロジェクト推進計画の立案・整理
- ③組の重点プロジェクトの活動実態等の調査、  
収集整理及び現状把握
- ④組重点プロジェクトの現状を組委員会に報告

# 重点プロジェクトリーダーの必要性

## 宗門を構成するすべての者が参画し実践する運動

### 【背景】

○宗門で統一した重点プロジェクト実践目標を定めた

○本来であれば、中央が教区、組、寺院等の全般をサポートすることが望ましい

○運動をより活性化するためには、中央が教区、教区が組、組が寺院をサポートする体制が望ましい

・・・重点プロジェクト推進体制相関図



# 組・寺院・団体の実践事例



## 組における主な重点プロジェクト

- 貧困問題、子どもの貧困への学び（研修会）
- 心の貧困について ○SDGsへの学び・取り組み
- 子ども若者ご縁づくりの活動と連携して実施
- 子どもの居場所づくり（キッズサンガ、子ども会開催）
- 子ども食堂や学習支援の実施及び協力
- 子どもたちの笑顔のために募金活動、啓発活動
- 「おてらおやつクラブ」への協力 ○フードバンクへの協力
- カトマンズ本願寺や海外関係団体との連携、海外支援
- 災害支援、被災地支援への取り組み
- 児童養護施設、学童保育の子どもへの支援
- 超宗派組織（仏教会等との連携）で取り組む
- 地域との連携 ○NPO法人との連携

## 組における主な重点プロジェクトの実践事例

- 研修会・学習会の実施【貧困の現状、SDGs等】
- 現場視察
- 子どもの居場所づくり【子ども食堂・学習支援、子ども会、サマースクールなど】
- 子どもたちの笑顔のために募金活動
- 地域活動参画【地域行事に組でブースを設置・居場所の提供】
- フードバンクへ寄付【組や教化団体の研修会等で呼びかけ】
- 児童養護施設等への物資支援【文房具・食品等】
- おやつクラブへの支援
- 学童保育への物資支援
- リサイクル回収【子どもと共に】【衣類、靴、本等の回収】など

# 実践事例①

## 「コートジボワールに愛の靴を送る支援」

【岐阜教区長良組】



履かなくなった靴を  
お寺で集める

幼児から大人、高齢者  
までが参加できる  
取り組み

トラックの積み荷の前で

## 実践事例②

# 「書き損じハガキで就学支援」【北豊教区門司組】



## 門司組重点プロジェクト

- ・フィリピン農村貧困世帯への教育支援
- ・寺院への啓発、意識改革

# 実践事例③

## 「子どもたちの笑顔のために募金」

### 【山口教区熊毛組仏教壮年会連盟】



仏社の社会貢献活動  
として募金を開始

会員、家族、お寺でも  
積極的に呼びかけ

# 実践事例④

## 「たまにはお寺で心身脱落」【岐阜教区・覚成寺】



← 食事のことばを言う  
子どもたち  
↓ 全員とハイタッチ



“夏休みだけじゃなく  
子どもの居場所を作りたい。”

# 実践事例④

## 「たまにはお寺で心身脱落」【岐阜教区・覚成寺】

コロナ禍でも活動を継続



↑ ドライブスルー・ランチ弁当配布の様子



← 食材の提供や飲食店の調理協力を得る



SDGs ↑ 制服のリユース 48

# 実践事例⑤

## 「寺子屋みらいin善宗寺」【東京教区・善宗寺】



子どもたちのために  
お寺を“教室”として開放

地域の元教員とともに  
子どもたちを支える



# 実践事例⑥

## 「高校卒業奉告法要」【新潟教区・長念寺】

地元の仲間と  
お寺が結ぶご縁

仏教青年会への  
“つながり”を期待



# 実践事例⑥

## 「高校卒業奉告法要」

## 【新潟教区・長念寺】



お寺を思い出の場所に

# 実践事例⑦

## 「ベビーズサンガ」【岐阜教区・善超寺】



同世代の子どもを持つ

寺院若夫婦が取り組み始めた

赤ちゃんとお母さんのための居場所づくり

# 実践事例⑦

## 「ベビーズサンガ」【岐阜教区・善超寺】

イベントはあえてせずに、  
おしゃべりしたり  
お茶を飲んだりして  
ゆったり過ごす



わらべうたベビーマッサージの様子



# 実践事例⑧

## 「お仏飯でホームレス支援」【兵庫教区・専光寺】



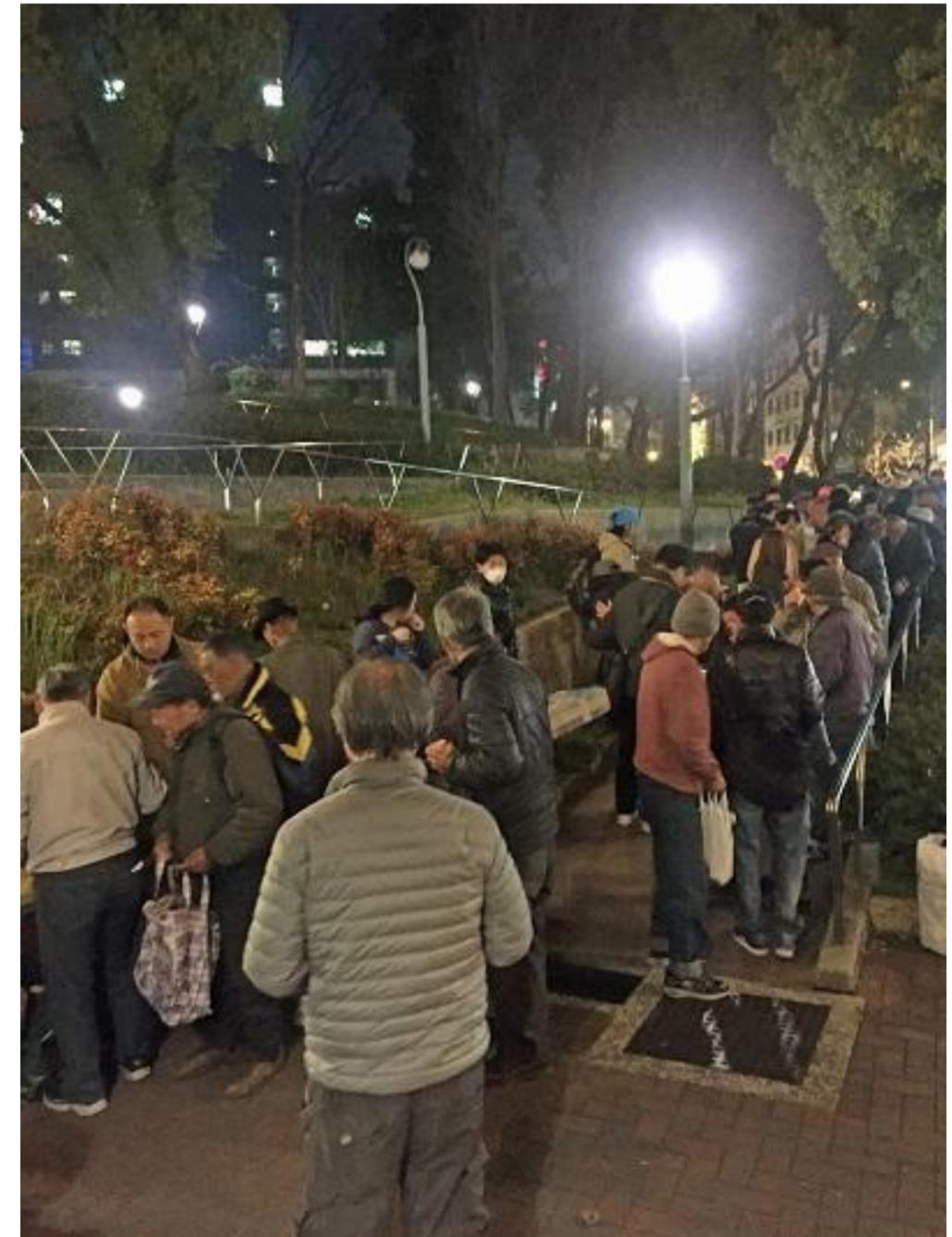
お仏飯米をお寺に届け、  
その活動で意識が変わる

# 実践事例⑧

## 「お仏飯でホームレス支援」【兵庫教区・専光寺】



多くの人とのご縁へ広がる



# 実践事例⑨

## 「解散寺院を憩いの場に再生」【安芸教区・萬福寺】

旧本堂など建物活用し地域に還元



形を変えても後世に



高齢者サロン

# 「おてらおやつクラブ」の取り組み

## 【認定NPO法人「おてらおやつクラブ」】

お寺へのさまざまな「おそなえ」を、仏さまからの「おさがり」として、  
経済的に困難な状況にあるご家庭へ「おすそわけ」する活動



### おてらおやつクラブ 3つの特徴

- ①もったいなくしていたお供えを  
ありがたいに変えられる
- ②おすそわけ以外の活動の充実
- ③コミュニティの広がりや深まり

・ これまでの活動を踏まえ、お寺、地域との協力のもと、再構築し、充実発展させることが大切である。

・ お寺が、私ができること、人や地域とつながること、ご縁をつないでいく。

# 御同朋の社会をめざす運動（実践運動）

重点プロジェクトの推進に

ご協力をお願いいたします。

ご清聴有難うございました。

